

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	16
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	4
5．人材の育成と支援	3
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	3
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支	2
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン	7
1．一人ひとりの把握	2
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の	2
見直し	
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	15
1．その人らしい暮らしの支援	13
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>41</b>

訪問調査日 調査実施の時間	平成 21年 9月 8日 開始 10時00分 ~ 終了 16時20分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム富塚・のぞみの里 ————— (新潟県)
評価調査員の氏名	氏名 <u>星野 久美子</u>
	氏名 <u>内藤 通</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>近藤 隆史</u> ヒアリングを行った職員数 ( 3 )人

**項目番号について**  
外部評価は41項目です。  
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**記入方法**  
[ 取り組みの事実 ]  
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。  
[ 取り組みを期待したい項目 ]  
確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。  
[ 取り組みを期待したい内容 ]  
「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

**用語の説明**  
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
家 族 = 家族に限定しています。  
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 調査報告概要表

評価確定日 平成 21年 9月 30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1590600035
法人名	社会福祉法人 シャーローム
事業所名	グループホーム 富塚・のぞみの里
所在地 (電話番号)	新潟県新発田市富塚1355番地 (電話) 0254-28-0880
評価機関名	特定非営利活動法人 ウェルフェア普及協会
所在地	新潟県三条市東三条1丁目6番14号
訪問調査日	平成21年9月8日

## 【情報提供票より】(21年8月23日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤	人, 常勤換算 12人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費・15,000 ~ 18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

## (4) 利用者の概要( 8月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	5 名	要介護2	7 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	2 名	要支援2	名			
年齢	平均	82.1 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中川診療所
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年、キリスト教精神に基づいて住みやすい地域づくりに貢献したいと社会福祉法人シャーロームが敬和学園大学と提携し開所している。敬和学園大学の敷地内にあるホームは大通りから少し入り閑静な環境である。L字型平屋建物の2ユニットであり各ユニットを自由に行き来することができる。「新潟県福祉の町づくり条例」に適合したバリアフリーで認知症高齢者の安全に配慮したものである。利用者の尊厳を守り、家庭的な雰囲気の中で、家族のようにあたたかい支援を行っている。大学との結びつきが深く、学生や教会関係者のボランティアが多い。近隣に民家がなく地域との関わりを模索しているが、1年目の課題を全職員で解決に努め、より良いホームを目指している事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回の外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員に自己評価票を回覧し、意義を説明しているが、全職員で一連の過程に取り組むまでには至っていない。今回の評価をきっかけに、改善に向け具体策の検討や実践に繋げる取り組みが期待される。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回、運営推進会議を行っており、家族・職員・民生委員・地域包括支援センター・大学副学長の参加がある。ホームの運営について経過報告を行い、検討事項についても意見交換している。畑を地域に開放する等、開かれたホームにしたいと取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱や苦情相談窓口を設置し、運推進会議等意見を表せる機会を設けているが、面会、電話等で直接言われる方が多く、運営に反映させている。個別の要望に対しては、職員に周知し日常のケアに反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>大学の敷地内にあり、近隣は企業が建ち並び民家は程遠いので、挨拶を交わすような日常的な交流はないが、大学からのボランティアや幼稚園児の訪問を受けている。今後災害時の連携を含め、行政区内といった広範囲な交流や近隣企業の方とも積極的に関わり、地域の一員としてともに街づくりを進める取り組みが期待される。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	キリストの教えである「愛と希望」の精神に則り、個人の尊厳を保持し自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援する...等の事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の熱い思いはあり、職員一人ひとりには理念を理解しているが、日々の中で実践に向けた意識づけや共有する機会を持っていない状況である。		管理者と職員は会議等で理念を意識・共有し、その理念を日々のケアに活かせるよう取り組むことが望ましい。
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	年2回発行の広報誌「のぞみ」を郵送したり、玄関に設置している。近隣は企業や大型店で民家が無く、活動・行事のない地域で理解を得る取り組みが今後の課題である。		多様な機会を捉え、家族や地域にホームの存在や理念を周知してもらえるような取り組みを期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大学関係者やキリスト教会員を通して「安心して住める町づくり」に努めている。大学のイベントに参加したり、共生学科の実習生やボランティアの訪問受け入れ、近隣の幼稚園児と交流している。管理者はこちらから出向く必要性を感じており、気軽に行き来できる環境づくりを模索している。		ホームを開放し、行事や教室等への参加を呼びかけたり、行政区内の行事に参加する等、ホームから積極的に関わり、地域の一員として気軽に行き来でき、ともに安心して暮らせる街づくりを進める更なる取り組みに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価の項目を回覧し意義を説明しているが、今回は代表者のみで自己評価を作成しており、全職員が意義を理解し活用するまでには至っていない。今後の活用方法を思案している。		全職員に評価の意義と活用方法が理解され、一連の評価の過程を通してサービスの質の向上に繋げる取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、大学関係者を含めたメンバーで開催している。ホームの運営状況、利用者状況、活動内容等を報告し、敷地内の畑の活用法等、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当係(介護指導係)と連絡を取り合い助言を受けている。2ヶ月に1回介護相談員派遣事業を受け入れている。市が中心となり市内地域密着型サービス事業所のネットワークづくりをはじめており、交流会等に参加している。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアで、管理者や職員間で虐待にあたる行為に注意を払い、見過ごされることがないように防止に努めているが、学ぶ機会がないのが現状である。		会議や勉強会で学ぶ機会を設け、全職員が共通した認識で虐待を見過ごさない更なる取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書送付時に、担当職員から利用者の日常や医療の状況、夜間の様子を手紙を同封し伝えている。面会時はもちろん、電話等でも個々に合わせた報告を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口を設置し、運営推進会議等意見を表わせる機会を設けている。面会時に直接意見を言われる方が多く、運営に反映させている。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は良き指導者であり、職員意見に耳を傾けているが、話し合いは毎日の申し送り時のみで会議やミーティング等の機会が少ない。		定期的に会議やミーティング等の話し合いの機会を設け、委員会を設置する等職員が意見を表出しやすい雰囲気や体制づくりをして、より良いサービス提供の為に職員意見を運営に反映させる取り組みが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	常勤職員の離職はないが、非常勤職員の離職があった。在職期間が短期間のため、利用者へのダメージはなかった。必要時、2ユニットで職員の勤務体制を調整する等配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルを整備しており、事務所に設置し周知に努めている。「医学知識・認知症ケア・介護記録ポケットマニュアル」に関しては、全職員に配布し携帯して活用できるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回法人内にて基本規定の研修を実施しているが、ケアやスキルに関して段階的、定期的な育成計画はなく、外部研修への参加を促している。管理者は随時面談し働きながらのトレーニングに努めているが、職員の質の確保や向上には不十分である。		法人の方針を反映したホームの研修計画を作成し、定期的・段階的に学ぶ機会を確保することや、外部研修受講後の伝達講習の徹底、面談を活かし職員一人ひとりが自己評価・目標設定し向上心を持って働けるよう取り組み、職員のスキルアップやサービスの質の向上に繋げることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催で市内地域密着型サービス事業所間での交流会に参加をはじめているが、サービスの質の向上へ繋げる取り組みはこれからである。		職員から他のグループホームへ研修の希望もあり、必要性を感じている。交流会を通じてネットワークの強化や、定期的な勉強会や交換研修等積極的にかかわり、サービスの質の向上をさせていく取り組みに期待したい。
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は職員一人ひとりと随時面談したり、畳コーナーのある休憩室と時間を確保し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。日頃の業務で「ケアビクス」等、利用者と一緒に体を動かし、ストレスを軽減することを推奨している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	訪問や面談を繰り返し、本人・家族のニーズや悩みを把握し相談している。事前に見学や利用者と一緒に過ごしてもらい馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩であり、人としての関わりを大切にしている。「人との関係で学べないことは一つもない」との思いで常に寄り添い信頼関係を持ち、昔の唄やことわざを学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等でその都度情報を伝え、通院介助や外出等協力してもらえようように声かけしている。本人と家族がより良い関係になれるよう、職員が潤滑油になり、一緒に支えていく関係を築いている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で常に寄り添い、言動や表情より希望や意向を読み取っている。個人の尊厳を保持して本人本位のケアに繋げることに努めている。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族や前サービス利用の関係者等より、これまでの暮らし方について情報把握に努めている。今後センター方式の活用を予定している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が主に作成し、職員に意見求め、職員・家族に同意を得ている。カンファレンスが持たず、関係者との話し合いによる計画作成には至っていない。		定期的カンファレンスを開催し、関係者のいろいろな意見やアイデアを出し合い、本人本位の検討を行ったその人らしい介護計画の作成を期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年をめやすに計画作成担当者が評価・見直しを実施している。計画に即したケアの実践や記録が不十分であり、現状や変化、要望に応じた介護計画の見直しには至っていない。		介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、職員が記録する利用者の状態変化や状況、家族・利用者の要望に応じた見直しを期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じ、通院介助や散歩・外出等、柔軟な支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、今までのかかりつけ医に受診の方が多い。原則的に家族に受診を依頼しているが、必要時や緊急時には同行し、医師や看護師と相談する等連携して、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に看取りはしない方向を本人・家族に説明しているが対応できる範囲等の明確化や方針の共有には不十分である。管理者は利用者の状況に合わせ今後の取り組み課題と考えている。		ホームの方針や対応できる範囲を明確にして、本人や家族、かかりつけ医等関係者と繰り返し話し合い、方針を共有する取り組みが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	キリストの精神や理念より、「認知症である前に一人の大切な人」として尊厳を大切にした対応やケアに心がけている。記録は目に触れないところでの記入に配慮し、事務所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に寄り添い、表情や言動などで気持ちをくみ取るようにしている。起床・就寝時間、散歩、食事等生活全般において、希望やペースを尊重しその人らしい暮らしを支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや有する力を活かしながら、食事の準備や配膳、後片付け等を一緒に行っている。七輪での秋刀魚焼きや焼きそば、おやつ作り等食事が楽しみなものとなる支援をしている。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターン、習慣、能力に合わせて気持ちよく排泄できるよう配慮している。なるべくおむつの使用を減らし、パットやリハビリパンツを選択することで自立に向けた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望やタイミングに合わせ、「入りたい」気持ちを大切にほぼ毎日の入浴を支援している。拒否の方には対応職員や時間を調整し対応している。季節湯や入浴剤の使用、好きな唄を歌い楽しみな時間となるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、洗濯物たたみ、食器洗い等、一人ひとりが生活の中でやりたいことや、自然に役割を感じ実行する自主性を大切に支援している。誕生日会、クリスマス会、お花見等楽しみや気晴らしの支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望や健康・心理状態、天候を考慮し、一人ひとりに合わせてホーム周辺を散歩したり、中庭の畑に出たり戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々のケアで何が身体拘束にあたるのか、職員間で注意を払い取り組んでいるが、正しく理解する機会が持てていないのが現状である。		会議や勉強会で正しく理解する機会を設け、全職員が共通した認識で、身体拘束をしないケアに取り組むことが望まれる。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員が理解し、玄関にチャイムを設置する等工夫して、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。一人で出かけられる方には声かけや見守りを徹底し、一緒に外出する等対応している。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故対策・災害対策マニュアルを策定している。ヒヤリハット事故報告書を活用し、速やかに分析・対応し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開所時、同法人内で合同に応急処置・救急法の講習を全職員が受講しているが、急変・事故発生時の対応について定期的に訓練が行われていない。		全職員が応急手当等に関して、定期的に訓練を行い、実際の場面で活かせる知識や技術を身に付けていることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを策定し、備蓄は本部に、防災セットはホームで準備している。必要性を感じてはいるが消防訓練の実施はこれからである。		災害は予期せぬ時に起こるので、利用者の生命を守る為、備蓄や訓練は必須であり、地域や消防署等にも呼びかけ協力体制を整えておくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や季節・行事に合わせ、献立と食材を業者に委託している。管理栄養士から摂取カロリーや栄養バランス、調理法等の助言を受けている。食事摂取量や状態を把握し、代替食・イオン飲料等で量や形態を調整し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはソファやピアノ、畳のコーナーがあり、利用者同士ゆったりと居心地よく過ごせるよう工夫している。中庭側はガラス張りとなっており、畑や季節の草花を見渡すことができる。屋内は落ち着いた木目調でバリアフリー等安全に配慮されており、「新潟県福祉の町づくり条例」に適合している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には洗面台が設置され、コールが装備されている。本人・家族と相談し、タンス等の家具や畳、家族の写真等、使い慣れたもの・好みの物を持参し居心地よく過ごせるような工夫をしている。		